

栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

令和 2(2020)年 6 月(週報第 23 週～第 26 週(6/1～6/28))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1 感染症解析情報 {6 月は4週間、5 月は 5 週間、前年同期は 4 週間での比較となります。}

(1)概況

ア. 6 月の報告数は次のとおりです。全数(1～5 類)把握疾病は、**52 件**(5 月は 38 件)でした。定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は **469 件**(定点あたり 2.91 件/週)であり、5 月の **368 件**(定点あたり 1.83 件/週)と比較し、週あたり **1.59 倍**と大幅に高い水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較(週あたり比)	前年同期との比較(週あたり比)
感染性胃腸炎	157 件 (週あたり平均 39.25 件)	 (1.56 倍) 前月は 126 件 (週あたり平均 25.20 件)	 (0.35 倍) * 前年同月 451 件 (週あたり平均 112.75 件)
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87 件 (週あたり平均 21.75 件)	 (1.43 倍) 前月は 76 件 (週あたり平均 15.20 件)	 (0.25 倍) * 前年同月 345 件 (週あたり平均 86.25 件)

- ① **感染性胃腸炎**は、前月に比べ報告数が 1.56 倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.35 倍と大幅に低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、大幅に低い水準で推移しています。
- ② **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、前月に比べ報告数が 1.43 倍とかなり高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.25 倍と大幅に低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、大幅に低い水準で推移しています。

(2)全数(1～5 類)把握疾病情報(全国)

ア. 1 類、2 類、3 類疾病及び指定感染症

結核 1,344 件(5 月 1,445 件)、細菌性赤痢 1 件(5 月 12 件)、腸管出血性大腸菌感染症 288 件(5 月 109 件)、腸チフス 1 件(5 月 1 件)、新型コロナウイルス感染症 1,459 件(5 月 2,754 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4 類・5 類(上位 6 疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	449	520
2	レジオネラ症	153	101
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	141	139
4	百日咳	89	141
5	後天性免疫不全症候群	71	110
6	侵襲性肺炎球菌感染症	69	98

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 52 件)

結核 22 件、新型コロナウイルス感染症 9 件、腸管出血性大腸菌感染症 1 件、つつが虫病 1 件、レジオネラ症 5 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 件、水痘(入院例)1 件、梅毒 9 件、破傷風 2 件、風しん 1 件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。

2 疾病の予防解説

夏季に多く発生する感染症は、腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱（プール熱）、ヘルパンギーナ、手足口病などです。夏季は暑さのため体力を消耗しやすく、特に、乳幼児や基礎疾患を持つ高齢者などは、重症化することもありますので注意が必要です。

これらの感染症は、手洗いなどによる予防が有効です。日頃から、バランスの良い食事や十分な休養を心がけ、症状があるときは、早めに医療機関を受診しましょう。

疾病名	原因と潜伏期間	症状	予防対策
腸管出血性大腸菌感染症	ベロ毒素を産生する大腸菌O157、O26、O111など 3～5日間	全く症状が出ないこともありますが、下痢、発熱、激しい腹痛、血便などが見られ、ときに重症化し溶血性尿毒症症候群や脳症を合併することもあります。	トイレの後や、調理・食事の前には必ずせっけんで手を洗ってください。生肉を食べることは避け、内部まで十分に加熱（中心温度が75℃、1分以上）して食べるようにしてください。
咽頭結膜熱（プール熱）	アデノウイルス 5～7日間	発熱、頭痛、食欲不振、全身のだるさ、のどの痛み、結膜炎を伴う症状が3～5日間続きます。基礎疾患がある方、乳幼児、高齢者では重篤化することがあります。	手洗いやうがいを励行してください。プールの前後には、シャワー、うがいをきちんと行い、感染者との密接な接触（タオル・ハンカチの貸し借りなど）は避けてください。
ヘルパンギーナ	コクサッキーA ウィルスなど 2～4日間	突然 38～40℃の高熱が1～3日続き、のどの痛みが現れ、口の中に小さな水ぶくれができ、ただれて痛みをとまいません。水分が摂れず脱水症になることがあります。ごくまれに髄膜炎や心筋炎などを合併することもあります。	手洗いやうがいを励行してください。症状が消失した後（4週間程度）も、便の中にウイルスが排泄されますので、排便やおむつ交換後の手洗いを徹底して行ってください。感染者との密接な接触（タオル・ハンカチの貸し借りなど）は避けてください。
手足口病	コクサッキーA ウィルスなど 3～5日間	手・足・口の中に水疱性の発しんができ、時にかゆみ、発熱をとまなう場合もあります。ごくまれに髄膜炎や脳炎などを合併することもあります。	手洗いを励行してください。症状が消失した後（4週間程度）も、便の中にウイルスが排泄されますので、排便やおむつ交換後の手洗いを徹底して行ってください。

（参考）国立感染症研究所 ホームページ <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases.html>

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、6月に県内で発生した警報および注意報はありませんでした。